

Valency が等しい 2 - class Association Schemes について

岩根博之

Strongly Regular Graphs with same valencies having p^n vertices

Hirosi IWANE

Abstract

Let Ω be a commutative 2 - class association scheme. We view Ω as a strongly regular graph. We can calculate eigenvalues and the multicityes of the strongly regular graphs that have the same valencies and p^n vertices, where p is odd prime. As a consequence of calculating the multiplicity we obtain that the number of vertices is p^{4k} , where p is odd prime.

1. Introduction

Γ を頂点の集合 $V = \{v_1, v_2, \dots, v_n\}$ と頂点の向きのない pair の集合 (辺と呼ばれるを $E\Gamma$ とする時, pair の集合 $(V, E\Gamma)$ を graph と呼ぶ。この graph にたいして strongly regular graph と呼ばれる graph が定義される。この graph は隣接行列を考えることで 2 - class association scheme と密接に関係している。Strongly regular graph の存在と 2 - class association scheme の存在とは同値になる ([3], [4])。

そこで頂点の個数や valency などに条件をつけて隣接行列の固有値及びその重複度を計算するという代数的手法と重複度が整数になることを用いてある種の strongly regular graph 非存在を示すことができる。頂点の個数が奇素数の時は決定ずみである ([6])。absolute bound を考慮すると頂点の個数が p^n , $n \leq 7$, で valency がおなじで重複度が異なる 2 - class association scheme は存在しない。

2. Strongly Regular Graph と Adjacency Matrix

Graph $(V, E\Gamma)$ にたいして $(v_i, v_j) \in E\Gamma$ ならば v_i と v_j は結ばれないと呼ぶことにする。 i を固定した時 $(v_i, v_j) \in E\Gamma$ となる j の個数を v_i の degree と呼ぶ。degree が頂点の選び方によらない一定の値をとる時 graph Γ は regular graph と呼ばれる。さらに下記の定義 1 を満たすときに strongly regular graph と呼ばれる ([3], [4] 参照)

定義 1

グラフ Γ が strongly regular graph であるとは次の条件をみたすとき

1. regular graph である
2. $(v_i, v_j) \in E\Gamma$ のとき
 $\lambda = |\{(k) | (v_i, v_k) \in E\Gamma, (v_j, v_k) \in E\Gamma\}|$ が v_i, v_j の選び方によらない。
3. $(v_i, v_j) \in E\Gamma$ のとき

$$\mu = |\{k \mid (v_i, v_k) \in E\Gamma, (v_j, v_k) \in E\Gamma\}| \text{ が } v_i, v_j \text{ の選び方によらない}$$

定義 2

グラフ Γ の隣接行列 (adjacency matrix) とは $v \times v$ (v は頂点の個数) の行列で成分が

$$A_{ij} = \begin{cases} 1 & v_i \text{ と } v_j \text{ が結ばれている} \\ 0 & \text{その他} \end{cases}$$

で定義される行列

R_0 : 自分自身 R_1 : 頂点が結ばれている R_2 : 頂点が結ばれていない という関係を考える集合 V と上の関係 $R_0 R_1 R_2$ で 2 class の association scheme ができる strongly regular graph と 2 class の association scheme とは同じことになる

$v = (V \text{ の個数})$ $k_1 = (\text{グラフ } \Gamma \text{ の degree})$ と置く

k_1 が R_1 の valency になる

A_1 を上の隣接行列, I を単位行列, J を all 1 の行列とし, $A_2 = J - I - A_1$ とする. 次の関係式が成り立つ.

$$A_1^2 = k_1 I + \lambda A_1 + \mu A_2$$

この関係式で strongly regular graph と 2-class association scheme が同じものになる

A_1 の固有値を k_1 (自明), r, s とし, 重複度 1, m_r, m_s とおく各パラメータの基本的な関係式は次のようにになる ([3])

$$v = 1 + k_1 + k_2 \quad n = 1 + m_r + m_s$$

$$0 = k_1 + rm_r + sm_s$$

$$vk_1 = k_1^r + r^r m_r + s^r m_s$$

そこで $v = p^n$ (p 奇素数) $k_1 = k_2, m_r \neq m_s$ とおくとつぎの Lemma が成り立つ

Lemma

2-class Association scheme で $n = p^t$ (p は奇素数), $k_1 = k_2, m_r \neq m_s$ ならば $t \equiv 0 \pmod{4}$ である.

3. Lemma の証明

Lemma

2-class association scheme で $v = p^t$ (p 奇素数), $k_1 = k_2, m_r \neq m_s$ ならば $t \equiv 0 \pmod{4}$ である

証明

$v = p^n$ を頂点の個数, 隣接行列を A_1 とし, I を単位行列 J をすべて 1 の行列として, $A_0 = I, A_1, A_2 = J - I - A_1, A_1$ と A_2 の valency を k 固有値を $r, s (r \geq s)$ とおく.

$A_1^2 = kA_0 + \lambda A_1 + \mu A_2$ とする

$$D = (2\lambda + 2 - k)^2 + v, \quad \alpha = 2\lambda + 1 - k \text{ とおくと固有値は } r = (\alpha + \sqrt{D})/2, \quad s = (\alpha - \sqrt{D})/2$$

$-\sqrt{D}/2$ と表される。 $m_r \neq m_s$ から $\sqrt{D} = -2k_1(1 + \alpha)/(m_r - m_s)$ となり \sqrt{D} が有理数で固有値は代数的整数だから $l = (2\lambda + 1 - k \pm \sqrt{D})/2$ 、 l は整数となる。 $\pm\sqrt{D} = 2l - 2\lambda - 1 + k$ で、 k が偶数だから $\sqrt{D} = 2t + 1$ 、 t は整数となる。 $v = (2t + 1)^2 - (2\lambda + 2 - k)^2$ と表せる。

$$2t + 3 + 2\lambda - k = A \quad (1)$$

$$2t - 1 - 2\lambda - k = B \quad (2)$$

$$(3)$$

とおくと $v = p^n$ から $A \cdot B = p^n$ で A, B は整数 p が素数だから A も B も p のべきになる。

$(A, B) = (p^l, p^{n-l})$ とする。

固有値は

$$r = (p^l - 1)/2 \quad s = (-p^{n-l} - 1)/2$$

重複度は

$$mr = (p^n - 1)/(p^{2l-n} + 1) \quad m_s = (p^n - 1)/(p^n - 1)/(p^{n-2l} + 1)$$

と表せる。

$l = 0, l = n$ のとき重複度が整数にならない。

$l \neq 0, n - l \geq l$ においてよい。 $u = n - 2l$ とおく、 $n = s \cdot u + a$ ($a < u$) において重複度を書き直す。

$$(p^{s+u+a} - 1)/(p^u + 1)$$

$(p^{us}p^a - 1)/(p^u + 1)$ となり $((p^u + 1) - 1)^s p^{a-1}$ の展開を考える。

$$\sum_{j=0}^s \binom{s}{j} (p^u + 1)^j (-1)^{s-j} p^a - 1$$

となり、 m_r と m_s が整数になることから $j \geq 1$ ならば $(p^u + 1)$ で割り切れ、残るのは $(-1)^s p^a - 1$ で $((-1)^s p^a - 1)/(p^u + 1)$ なくなるはず。 $a = 0$ で s は偶数になる $s = 2t$ $t \in \mathbb{Z}$ となり、 $n = 2tu$ から $u = 2tu - 2l$ で、 $2l = u(2t - 1)$ から u も偶数になり、 n は 4 の倍数になる。

Remark

$v = p^4$ の時、 (A, B) として $(p, p^3), (p^2, p^2), (p^3, p^1)$ がでてくる。 (p^1, p^3) のときだけ調べればよい。 (p^2, p^2) は重複度が同じになる。 (p^1, p^3) の時重複度は $m_r = (p_4 - 1)p^3/(p^3 + p)$ と $(p^2 - 1)$ になる。

Theorem (Absolute bound condition) ([6] を参照)

$\mathcal{Q} = (X, \{R_i\}_{0 \leq i \leq d})$ を commutative association scheme class d とするとき、
 $m_i = \text{rank}(E_i)$ とおくと、

$$|X| \leq \binom{m_i + d - 1}{d} + \binom{m_i + d - 2}{d-1}$$

$d = 2$ とし $m_i = (p^2 - 1)$ を代入すると、 $(p^4 + p^2 - 2)/2$ となり、Theorem が成立しない。

$v = p^4$ の時、Valency が同じで 重複度が異なる 2-class の commutative association scheme は存在しない。

参考文献

- 1) X L Hubaut "Strongly regular graphs", Discrete Math13 (1975), 357-381

- 2) P Delsarte "An Algebraic approach to the association scheme of Coding theory" Philips RES Report 10 (1973)
- 3) N Biggs "Algebraic Graph Theory", Cambridge UNIV press (1974)
- 4) Seidel J "Strongly regular graphs", Surveys in Combinatorics (Cambridge U P) (1979)
- 5) Bannai and Ito "Algebraic Combinatrics I", Benjamin (1984)
- 6) A Brouwer, A Cohen, A Neumaier "Distance Regular Graphs" Springer Verlag 1989
- 7) P Terwilliger J Algebraic Combinatrics 1(1992), 363-388